

広島県立府中高等学校

(1) 学校の概要

(2) 教育活動

そのため同校では、学びの本質、教科の本質の追求を、「育てたい力（【知】高い人間力・学力，【徳】豊かな心・社会性，【体】心身のたくましさ）」の育成という目標の実現のための方向性とし、カリキュラムの編成・工夫・改善等「イ・カリキュラムのPDCA」を行っている。

ア 学びの本質を追求する取組

(7) 学びと成長のストーリーで生徒も教員も府
中高等学校の学びのイメージを共有

ストーリー（Ⅰ）「学習の仕方のストーリー」
は、生徒が「教科の学力を段階的・系統的に高め、
自らの進路希望を実現」できることを目的として作
成されており、生徒は各学年での学習の在り方を確
認しつつ、進路希望実現に向けて自分及び自分の学
びがどのように高まって行けばよいのかが確認でき
るようになっている。

ストーリー（Ⅱ）〔特別活動と部活動のストーリー〕は、生徒が「ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事、部活動等を通して、社会性・協調性等を育み、心身を鍛える」ことを目指して作成されており、特別活動や部活動の意義やそれらを通してどのような資質・能力の高まりを期待しているのかを、生徒が理解できるようになっている。

ストーリー（Ⅲ）〔総合的な学びのストーリー〕は、生徒が「『学びの仕組み』を理解し、自己評価できるとともに、自ら課題を見つけ、他者と協働して探究」できることを目的として作成されており、自ら課題を見つけ、他者と協働して探究する資質・能力を3年間でどのように高めていくのかを生

教員はこのストーリーの作成・活用・改善を通して、府中高等学校の学びはどうあるべきか、生徒の学びの高まりを3年間の成長の中でどのように支援していくかを共有できている。

[illegible]

図1 学びと成長のストーリー（Ⅲ）

(イ) 「府中学」で学びを追求

府中高等学校はユネスコスクールとしてESD（持続可能な開発のための教育）に全学年で取り組んでいる。その一環として、第2学年では総合的な学習の時間においてテーマを「府中学」とし、府中市の諸課題の解決に向け探究活動を行っている。近隣の市町のデータとの比較等により府中市の課題の原因を分析し、考案した解決策を府中市に提言する「府中市への提言」を行った。さらに、ハワイの修学旅行では、提言に向けた探究により養われた視点を生かして、海外の都市と府中市の比較を行う自主研修に取り組んだ。教科等で培った学びを総合して社会を捉え、社会を変えていく力を育成することを目指した総合的な学習の時間を通して、生徒は「地域で生きるとはどういうことなのか」「本当の学びとは何なのか」を追求することができている。

イ 深い学び実現に向けた授業改善

教科において教科の本質に迫るためには、生徒の深い学びを実現することが重要である。府中高等学校では、教科の本質に迫る深い学びの実現に向けた授業改善に平成27年度から取り組んでいる。全ての教員が「深い学び」の実現を目指した授業改善を行えるように、PDCAサイクルを基盤とした「府中高校〔深い学び〕に繋がる『授業改善サイクル』」が作成された。この授業改善サイクルに基づき、教

員は各教科の特性や教員個人としての取り組みやすさを踏まえ、次の中から授業形態を選択して、授業実践を行うこととしている。

【α】生徒全員の「深い学び」に繋がる学習形態を工夫（活用）した教科授業
【β】ジグソー・KJ法等の学習方法を活用した教科授業
【γ】「ICEの動詞整理表」「ICEの動詞に基づく評価表」を活用した教科授業
【δ】生徒自身が学んだことを簡潔で構造的に整理できる「振り返り」

相互授業参観では、教員4名1組をグループとして、各教員が担当の教科、担当外の教科の授業をそれぞれ1回以上参観するようになっている。参観授業の様子はダイジェスト版の映像（約10分）としてサーバーに保存しており、教員がいつでも視聴できるようになっている。また、管理職や他の教員による授業観察表、生徒による授業評価アンケートも全て閲覧可能となっているので、教員は参考になる同僚の授業を見付けて実際の授業を参観するということも行われている。教員全員での研修では、上記の四つの授業形態ごとの代表的な授業の映像を視聴して、府中高等学校の学びについての理解を深めている。

ウ 深い学びに向けた生徒支援

(7) 学びの評価表の活用

深い学び実現のための一つの考え方である「ICEモデル」が紹介している、理解の深まりを判断する指標となる動詞を学校として整理を行い、「府中高校における学習・説明・発表などの〔学び〕に関する『動詞』の整理表」として表すとともに、その整理に基づいて「府中高校における〔学び〕に関する『動詞』に基づく〔学びの評価表（基本形）〕」という評価基準を作成した。生徒はこの基準表を参考にして、自分は学習した内容に基づいて何ができれば（「列举する」「予測する」など）、どこまで学びが深まったのかを確認できる。

(4) 学びの振り返りシートの活用

総合的な学習の時間で活用している振り返りシートを各教科用に編成し直し、「学びの振り返りシート」を作成した。各単元後、このシートを作成して生徒は学習内容の理解が深まったか、設定された力が身に付いたか、学び方は身に付いたかについて点検できる。

表1 学びに関する「動詞」の整理表

〔ICE〕	学びの動詞 〔思考・判断〕	表現（例）
Ideas (考え・基礎知識)	定義する 列举する	・他の言葉で言い換える ・要素を挙げる ・主な例を挙げる
Connections (つながり・活用)	比較・対比する 分類・識別する 統合する	・順序立てて説明する ・関係について説明する ・根拠を挙げながら意見を述べる
Extensions (応用・ひろがり)	評価する 計画する 予測する	・価値や意義を説明する ・課題の解決策を提案する ・新たな課題を設定する

(3) 経営活動

村上校長は、教育活動を支える組織マネジメント（「ウ.組織構造」「エ.学校文化」）にも力を入れ、教育活動が十分に機能するよう努めている。

ア 組織構造の工夫（業務改善）

府中高等学校が目指す学びを実現するためには、教員の努力は必要であるが、教員が重点目標に力を注ぐためのある程度の時間確保が必要となる。そのような時間を確保するために、校長は業務改善に努めている。個人の業務量調査を行い、教頭、主幹教諭、関係部署の主任と連携を密にしながら年度途中であっても、業務量のアンバランスを改善するようにしている。

イ 教員の目標設定から組織文化を醸成

進学校ではしばしば、学校だけでなく教員個々の成果として定期考査や模擬試験等の結果の目標設定が求められることがある。しかし、府中高等学校の教員の自己評価における個人目標には、模擬試験の結果等の数値目標ではなく、学校教育目標や目指す生徒像、生徒の希望進路を実現するための目標を設定させることで、教員にあくまでも教育の本質を追求することを促している。

ウ ノウハウが共有できる組織文化

今年度は進路指導等指導関連表を作成中である。この表により進路指導や教職経験の長い教員、いわゆる進路指導のエキスパートの経験や勘に基づく知識を明文化、視覚化している。このことにより、府中高等学校の叡智が教員間で共有されるとともに、エキスパートが異動になっても仕事の引継ぎがスムーズに行われる。このように個々の知恵を出し惜しみすることなく、共有・引継ぎが当然の営みとなる組織文化が醸成されている。